

地球人の無知を知れ！

脱アインシュタイン…

<http://www.jomaca.join-us.jp/shire.pdf>

二〇二三年九月十一日

ヤマト平民会議 山田 学まなぶ ©

※本論は、二〇二一年五月公開へUFOや宇宙人を迎へる準備」と、二〇二一年三月公開へ学問の本質の論を、まとめ、改題・更新いたしました。諸民族の調和へ、それを仲介させていただきました、日本民族。お肚なかの底からの、声とするため、旧かなにて、書かせていただきました。

迎へる準備

冒頭に、お詫びします。今の日本の学校歴観に。わたくしが、一九八一年に、東大工学部を中退した事実を。高校校歴なほもちて、聖人化しうる。言はむや、無学校歴は聖人化しうる。ただし、おたがひの健康平和な生活の道、これをこそ、生産しあふと、めざしあへるなら。そのやう、社会の本質に、帰りうるなら。

ダヴォス会議を主催する、世界経済フォーラムなどが、いびつな地球統制を、助長しようとしてゐます。近代科学は、実は、次の理解が、薄いです。人間や他生物の生命について。人間による世界認識について。人間が諸民族性に分化したことについて。世界経済フォーラムなどは、その近代科学の弱点のままに、十九世紀以降の、化学や、二十世紀以降の、遺伝子工学や、計測制御技術などに、とらはれ、いびつな地球統制を、助長しようとしてゐます。その裏に、特定大企業群の資産増殖欲も、見え隠れします。

ともかくも、〈眞智〉、すなはち、健康平和な、現実の認識が、望まれます。

十七世紀以降、数学と物理学が、発達しました。実はまだ、〈眞智〉の数学、〈眞智〉の物理学と、架空の認識としての、数学や物理学が、混在してゐます。むしろ、架空の認識から、数学や物理学を、統制してゐるのが、二十世紀以降の、数理哲学と物理哲学、なのです。代表学者は、ラッセル、ヒルベルト、アインシュタインです。近未来、UFOや異星人の問題にも、対応する必要があります。これら代表学者を、批判・克服せぬ限り、必要な対応は、不可能です。実は、地球人は、宇宙にて、後進生物にすぎませぬ。異星人に、教へてもらつた、などの、未来的な、エネルギー技術などが、すでに、米軍の裏などに、ある。さういふ説も、あります。

わたくしは、東大に限界を感じ、そして、地球人の無知を、知りました。近未

来の人間社会に必須と、考へられる、〈次の学問〉こそを、数十年間、蓄積してをります。それは、わたくしの労働寄付により。その内容は、ほかにはない、まさに貴重品であると、ひろく、お認めいただけますでせうか。

〈次の学問〉は、あらゆる分野にわたりますが、まづ、理工系関連は、以下です。

アインシュタインの限界について、指摘した。

「物理学再考」

表紙 http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_butsuri_fine.pdf



本文 (14枚) http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_butsuri.pdf



数学を、西欧宗教から解放し、現場の方法を論理化する、数学の基礎の論。

「現実論としての数学を」

表紙 http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_sugaku_fine.pdf



本文 (23枚) http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_sugaku.pdf



生物系と個人をめぐり、物理学と、生理学と、認識学と、さらに道徳学を、統一。

「生物系と個人」

表紙 http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_seibutsukei_fine.pdf



本文 (10枚) http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_seibutsukei.pdf



常温にての、核融合や核分裂の可能性について、まとめた。

「原子転換論」

表紙 http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_tenkan_fine.pdf



本文 (14枚) http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_tenkan.pdf



わたくしの父が発明した、〈氣功を工業化する技術〉。これを説明するため、縄文の土器や土偶にもヒントを得つつ、物理学や生理学に、ふたつの新しい概念を提唱。

「TQ技術の理解へ」

表紙 http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_rikai_fine.pdf



本文 (26枚) http://www.jomaca.join-us.jp/jomaca_rikai.pdf



さて、世界を、一面からのみ、観てはいけません。世界には、いくつもの面があり、〈諸面の区別と連関〉を解明していく、このことこそが、本質論なのです。

ドイツのヘーゲル (1770～1831) にとり、このことは、常識でした。これを否定してしまひ、「現代哲学」を、発表させてしまった。その人が、イギリスのラッセル (1872～1970) です。ラッセルは、数学者出身。世界を一面からのみ、観て、「無矛盾」を、夢想しました。あるいは、大英帝国の地球支配、それにとり、ラッセル思想も、必要だったのでせう。

実は、今のICT（情報通信技術）も、論理としては、ラッセルの弟子です。結果、さまざまな矛盾に、ぶつかつてゐます。

なほ、自由の本質は、〈世界対応の自由〉です。人民ひとりひとりが、〈眞智〉（健康平和な、現実の認識）の、〈学問と技能と規律と体力〉、これを、自分に増す。さうして、〈世界対応の自由〉、これを、拡張していきませう。

生活のあらゆる場面に、〈聖なる感謝〉しつつ、〈眞智〉（健康平和な、現実の認識）にて〈聖愛〉（健康平和な、生活協力）しあふ。これに努める人を、聖人ないし、聖人化の人と、呼びませう。UFOや異星人を迎へる準備。そのために、転ばぬ先の杖として、学問を転換させる。〈次の学問〉こそが、必須な、これからにて、あらゆる俗人は、聖人化しうる。聖人化連帯です。ヤマト平民会議です。『ヤマトより愛をこめて』といふ歌もありますが、今は神風特攻隊といふ一揆よりも、〈次の学問〉こそを、学びあひませう。

学問立国へ

〈次の学問〉は、憂き世インターネットの、〃知の細分化、渾沌〃とは、正反對なのです！ 今の学界外の、山田学にて、実はすでに確立、潜在してゐる、（理工系に限らぬ）思考統合Ⅱ〈学問の本質の論〉の悦びを、在野から浮上させていただく興奮…。ここにて、お立ち会ひいただけますか。地球協同社会への超然概念集なのです。日本国がむしろ学問立国へ脱皮する中身です。これからの成長分野です。〈まうひとつの学界〉です。

世界は、その本質も、一面ではありません。いくつもの面があります。世界の、本質的な、全面。それらへ、着目していく。すると、世界は〈本質的な諸面の変化〉として、認識されます。変化する対象において、ある、〈矛盾する論理〉として、世界の本質的な諸面は、理解されていきつつ、世界の本質的な全面は、理解されます。〈矛盾する論理〉とは、「何かである、とともに、それでない。」です。変化の論理です。

わたくしどもが、今までに、思索してきた、すなはち、矛盾の解決をしてきた、〈対立の統一〉ないし〈区別と連関〉の諸項目を、以下に、綴ります。これらの思索は、ほとんど、

JOMON(縄文)あかみサイト <http://www.jomoca.join-us.jp>



の、さまざまな記録内容のなかに、あります。本質論は、むろん、抽象論であり、具体論については、それら、さまざまな記録内容のほうを、ご覧いただけますか。ここではまづ、抽象論の高みにのみ、短く接していただけますか。

世界の本質、あるいは、世界の諸分野の本質には、以下の、〈対立の統一〉

ないし〈區別と連関〉がある。(世界の本質の論が、世界学本質論。世界の諸分野の本質の論が、科学本質論。前者と後者を合せ、学問の本質の論。)

〈世界の本質〉

世界は〈主体と客体〉である。世界は〈体内と体外と認識したい〉である。体内が、主体であり、体外と認識したいが、客体である。世界は、体内の動的存在と、体内の静的存在と、関係と、動的属性と、静的属性と、実体、である。体内の動的存在と、体内の静的存在が、主体であり、関係と、動的属性と、静的属性と、実体が、客体、すなはち体外と認識したい、である。

世界はまた、生活と生産と自然と宇宙、である。

世界には、架空の世界と、現実の世界とが、ある。世界には、未知の部分と、既知の部分とが、ある。世界は、時間と空間の統一、である。時間の過去と未来、について、未知の部分と、既知の部分とが、ある。空間の壮大と微細、について、未知の部分と、既知の部分とが、ある。世界には、歴史があり、部分として、過程があり、部分として、運動がある。世界の歴史は、すなはち、進化と発達である。進化と発達には、流転と集結がある。異星人と人間社会の問題、もある。

世界は、あるいは、世界の諸分野は、本質と構造と現象の統一、である。世界には、類と部分と個が、ある。類には、普遍性があり、部分には、特殊性と普遍面があり、個には、個性と特殊面と普遍面がある。

世界の関係には、矛盾する論理と、絶対の論理とが、ある。矛盾の解決には、調和と闘争がある。あるものの変化に、対立するものが、媒介する。あるものから対立するものへ、対立するものからものあるものへ、否定の否定、といふ変化がある。あるものが、直接に、対立するものである、といふことがある。

世界の部分に、質と量とかずと図形がある。量とかずと図形において、執着無限と、実用無限とがある。あるものと対立するものは、質と量において、浸透と転化がある。ものごとには、内容と形式がある。あるものから対立するものへ、内容と形式において、止揚がある。

世界は、現象において、偶然と意志があり、本質において、必然がある。世界には、主体的から客体的へ、道徳と経営と公会発達と認識理と生理と物理、といふ分野がある。世界は、意志の三重と、必然の三重。道徳の意志と、経営の意志と、公会発達の意志。認識理の必然と、生理の必然と、物理の必然。主体すなはち体内にもとづき、病的戦争と健康平和がある。〈眞智〉、健康平和な、現実の認識、にての、保育と教育と保健(の運営と指導)と看護と医療が、理想である。諸民族の伝統には、必然があり、諸民族の調和へ創造する意志が、理想である。個人には、受精と生誕から死亡までの、物理と生理と認識理が、

ある。

〈道德の本質〉

〈眞智〉、健康平和な、現実の認識、にての、労働力の養成と使用。これに、世界対応の自由の拡張が、ある。労働力は、学問と技能と規律と体力である。労働と修正と休養において、姿勢動作と呼吸と意識を、工夫する。技能には、創出と保持と使用が、ある。認識と生体に、技能があり、労働手段と休養手段に、技術がある。必然の、苦しみや悩みこそ、導きの糸。〈聖なる感謝〉しつつ、体内の〈快〉を、求む。〈無〉^む 不快が無いを、求む。生活のあらゆる場面で、〈聖なる感謝〉しつつ、〈眞智〉（健康平和な、現実の認識）にて〈聖愛〉（健康平和な、生活協力）しあふ。聖人化連帯する。健康平和な、姿勢動作と、呼吸と、食事（と排泄）と、人間関係（とくに異性関係）と、精神と、生活環境を、追求しあひつづける。健康平和研究の冥想生活。これが、保健であり、冥想生活において、道德を発達させる。資本制社会を止揚してゆく。道德といふ生活規範は、個々人に属し、道德共同体の運営や指導は、道德案のみである。

〈経営の本質〉

呪術と宗教と哲学と科学と政治、これらの伝統こそを、止揚し、〈眞智〉、健康平和な、現実の認識こそを、生産しあふ。現場の渾沌とした情報に、もとづき、秩序ある予想を、しあふ。記録と記憶と注意と発想と会議、これらを連関させる。予想を、実験と運営と経営により、確認しあふ。資産と収支と負債を、反省する。生産前提と労働力を組みあはせ、生産する。生産前提は、労働対象と労働手段である。労働力は、休養手段と、保育と教育と保健と看護と医療により、養成する。仕入と生産と陳列と販促と健康平和研究、これらの最高品質と最低費用を、追求する。商品の魅力と、陳列管理のわかりやすさを、追求する。あらゆる人に期待される、をめざす。提案と通信と金融と運輸と建築を、健康平和化する。資産増殖目的から、未来協同目的へ、再編しあふ。食糧と資源とエネルギーと通貨の需給を、健康平和化する。労働と貨幣の関係、認識と言語の関係を、正しく、理解しあふ。

〈公会発達の本質〉

人間は、世界を認識し、表現ないし言語し記号しあつてゐる。機能言語学より、内容言語学を、発達させる。生活は、労働と生産と休養である。〈眞智〉、健康平和な、現実の認識、にての、規範と学問と祈りと芸術と養生、つまり、善と眞と信と美と健を、発達させる。公会創造には、学問（思考）と、生産（生体）と、道德（情感）と、民衆批評（情念）と、政治解消（情念）、といふ分野がある。公会創造は、思索と情念の先導と、批評と反発の自由、である。公会

創造は、指導と運営を、させていただく。指導部と運営部は、民衆に期待される、をめざす。未来協同へ、規範と、概念を、統一していきあふ。未来協同には、公会と協会と個人とが、ある。家庭と同好会と職場といふ、私的な協会がある。地球公会への道を信仰する。人間社会は、三重の構造。人間社会は、まづ、生産の社会がある。労働による生産の社会。その生産の社会のうちに、認識表現の社会がある。認識による表現の社会。その認識表現の社会のうちに、規範の社会がある。規範による調整の社会。人民の、思考と生体と情感と情念。それが、認識表現（学問協会）、生産（生産協会）、規範（道德協会なにし政治解消協会）にて、協同する。人民と、地球社会が、調和する。諸民族の闘争から調和へ、追求しあふ。階級（資産格差）の闘争から、資産循環へ、追求しあふ。労働力（といふ商品）と、通常商品と、貨幣（といふ商品）の、存在と要望を、調整しあふ。人間社会の健康平和化のための、立法と執行と司法と世論ないし選挙、を、考へる。すなはち、政治形態と統治形態と国家形態を、考へる。軍事産業から、健康平和事業へ、追求しあふ。

〈認識理の本質〉

認識には、感覚と表象と概念がある。目的と意志と規範も、ある。規範には、言語規範・記号規範と、道徳と、組織規範と、法律と、条約がある。認識する自分には、生体自分と、脱生体自分とが、ある。認識には、眞理と誤謬がある。眞理には、相対的眞理と、絶対的眞理とがある。概念は、概念と判断と推論へ、展開される。原子ないし素粒子といふ概念と、ものあはれ・雪月花・花鳥風月といふ表象と、酵素活性場の予感を、調和させていく。

〈生理の本質〉

主体の陰陽と、客体の陰性陽性といふ、生理反応としての世界観がある。客体的と主体的の統一として、神経的認識と、血液的労働がある。文学の主題として、愛と死がある。生命は、生命体といふ主体における、代謝過程である。遺伝模様は、生存環境に適應する形態において、代謝過程に反映する。生命体を構成してある物質は、交替してある、とともに、生命体の構造・機能は、一定期間、保持されてある。さまざまな長さ単位の、動的立体模様の、進化的いし発達に、着目する。地球表面の動的立体模様の、進化。生物系の動的立体模様の、進化。脊椎動物の、顎と歯と骨の、動的立体模様の、進化。人間社会の動的立体模様の、発達。個人の全身の、動的立体模様の、発達。細胞の動的立体模様の、進化。タンパク質分子団の、アミノ酸的な、動的立体模様の、進化。RNA群の動的立体模様の、進化。ソマチッドなどの動的立体模様の、進化。H2O分子団の動的立体模様の、進化。原子核（とくに酸素原子核）内の、動的立体模様の、進化。物質には、生命促進性といふ物性がある。

〈物理の本質〉

物体運動は、今、ここに、有る、とともに、無い、である。空間の全位置に、場といふ性質があり、空間の位置には、真空位置と、物質存在位置とが、ある。「遠隔力」より、場の論理を、深める。場は、空間の各位置における、加速度の可能性と現実性、である。力学から電磁気学を、解釈するのでなく、電磁気学の延長から、力学を止揚する。物質には、弾性と塑性と粘性と分離性の総合がある。「エネルギー保存則」といふよりは、物質的運動における、転化比例法則である。

地球協同社会のための超然概念集。これは、これからも、発達します。これこそは、創造のための、熟議と、それを促進する、今までにないICTの、核心なのです。内容分類の核心なのです。非難しあふのでなく、〈調和追求協同思索法〉の開発なのです。

そもそも、わからないものが、ある。さう、甘受させていただく。これこそが、人間として、精神安定の根本なのです。最高の悟りです。無理なく、無駄なく、未知を、既知に、していきあひませう。

ヤマト平民会議といふ、人間社会の〈本史〉の起点から、人間社会が健康平和化してゆく必然を、理性的に、待たせていただきます。

わたくしの学問の最高の師たる、三浦つとむ師(1911～1989)に、本論を捧げます。師こそは、東京府立工芸学校中退といふ、学校歴です。無学校歴は聖人化しうる。ヘーゲル風な思考統合の威力、その復興なのです。在野にて孤高の独学に追ひ込まれた、〈学問歴〉は、学校歴と、区別されます。三浦師においても、わたくしにおいても。

明るくなるよね 明るくなるさ

仲良くなるよね 仲良くなるさ

賢くなるよね 賢くなるさ

エレガントに やさしく

エレガントに やさしく

エレガントに やさしく

次の社会を